



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

66

國家圖書館出版社

六月四日

六月二日



國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

66

國家圖書館出版社

第六六冊目錄

昭和十六年（一九四一）旅行日誌（第三十八期生）

荻原義久	第十九班		一
青柳星美	第十九班		三三
小澤潤一郎	第十九班		六三
宮坂喜雄	第二十班		七九
三枝重雄	第二十班		一一七
友野裕	第二十班		一三七
安藤健吉	第二十班		一七一
橋本清	第二十班		二〇一
窪田元次郎	第二十一班		二二九
松崎茂夫	第二十一班		二六一
井上俊一郎	第二十一班		三〇三

青山貢	第二十一班		三五三
山下伸二郎	第二十一班		三八一
殿塚隆治	第二十二班		四一五
田尻泰正	第二十三班		四四五
細豐治	第二十三班		四九七
丸田慶一	第二十三班		五二五
伏木清吉	第二十三班		五五三
皿谷伊勢男	第二十四班		五七七

昭和十六年度

大旅行日誌

第十九班

萩原義久

旅行日記

四年乙組 萩原義久

六月六日 晴

午前六時起床、靖国神社参拜、軽く朝食を済ませ、

天通庫裏口向ふ一行馬柳小沢田原、面々、午前九時四十分

北站發、天通号に便乗、南京に向ふ、南京着は午後二時四十分

興中路、京中旅館に一泊、三年前の思い出に、南京見物と

ニアし、返玉

六月七日 晴

旅館を九時頃出、九時十二碼頭に向ふ、出帆は午後三時の由

正午乗船 興運丸の人となる。午後七時蕪湖着（着）
 六月八日 雲
 朝寢を居る所に進航し午後四時安慶着 静かな江上と
 興運丸は一休み、船中では學生連中集つて投げ環に夢中
 となつて大騒はきつて居る。夜十時頃就寢
 六月九日 小雨
 船はいつか知らぬ所に出航。午前十時頃、小雨に煙る
 エキゾチックな九江碼頭に着く。午後八時頃湖北、江西の
 省境に停泊。月明の江上に誰か知らぬ遠く吹き鳴らす
 尺八に耳を樂ませつゝ感慨に耽る。

六月十日 雲
 八時起床、雨に煙った西岸の風景に眼を樂しませつゝ、
 下船。準備にとりかゝる。漢口には十時を頃着く由。
 午後四時江漢路の深沢支輩に案内され、黃陂路の齊藤昌義
 (十四期) 支輩宅に到着。支輩は留守で、奥の子女と
 午後十二時頃迄談一談。
 六月十一日 晴
 午前七時起床。支那料理の朝食を済ませ、漢口神社参拜
 江漢路の深沢支輩宅に挨拶に行く。午後は子供と遊ぶ所が
 少く、午後九時就寝。

六月十二日 晴

朝八時一日前に横濱に上り、平井から電話があり、山北省政府顧問

岡田三郎氏を訪問、山北省政府顧問岡田に紹介状を頂く。

午後二時、黄陂路。湖北省財政整理委員会訪問、總務科長

張緒良氏、會計科長曹鎮平氏から、省財政について、お話をし、

承る。午後七時、西田氏に招待され、佛租界で吃飯。

六月十三日 晴

朝七時起床、子供と一緒に朝飯を済ませ、横濱特別市最高顧問

岡高木李熊氏を訪問、市財政に关し、高談を承はり、陸軍特務

部林田氏を紹介する。午後は家で子供と遊び、外に出ず。

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室

六月十四日 晴

午前七時起床、横江神社参拜、午前九時半より持務部林田代訪
問、市財政に關する説明及資料を模寫せしむべく
晝飯おき、午後四時迄資料を寫す、午後五時から武徳会へ、
漢口軍と柔道の試合を行ふ。小生三人、屠ふり四人目に引か
れ、晝飯側の勝利に歸す。夜は横江の同窓会の歓迎会に臨
み、午後十一時就寢。

六月十五日 晴

午前十時から持務部訪問、續きで資料を寫す、晝飯を
食はす、午後三時頃迄休む。

六月十六日 晴

午前七時起床、佛壇裏見物後千代洋行に現像を撮る、
 午後は高柳についで、民團訪問、先輩の民團長から居留民
 團の話を承まはる。夜は先輩宅で歓迎会

六月十七日 晴

昨夜の豪雨に、綺麗に洗はれた武庫三鎮の景色は気持ちよい。
 午後十一時半省政府訪問、参考資料を取山頂き、昼飯を佛馳
 走になる。午後は黄鶴樓に登り、黄公祠に参拝。午後三時、
 樓口上回る。夜は同室の羅先生に晚餐に招待され、酒肴を
 召し用ゐる。走になる。

六月十八日 晴

先輩の少爺と、小學校見物、晝は家？ゴロ／＼寝ころんで過す。
 丁度先輩の奥村と子供と映画見物午後十時就寝。

六月十九日 晴

午前九時武蔵交通のバスに乗り、渡しによつて横陽に渡る。

大別山に於て武蔵三鎮を鳥瞰、二時間程木陰が涼む。

山を下り五右衛門と見物し午後二時先輩宅に歸り資料を

整理、夜は子供とトランプして過す。

横口に來て十日程経つに横口見物、中山公園へ行つてを

些い心裏着急がある。

六月二日 晴

午前六時半起床。武昌を九時半發の奥境線に便乗し岳陽に
午後七時着。警備隊に挨拶しそこを所厄介になる。岳のより
ら眺める洞庭湖の夕陽は莊嚴の感じに打たれる。

六月二日 晴

六時起床。兵隊サニと飯を共にす。前線へ辭けさは何とな
く趣味がある。午後は一行と共に洞庭湖、岳陽樓、中堂夜を
見學す。夜は長谷川漁船と夜半を語る。

六月二日 晴

午前六時半起床。サニの心からの馬走になり八時岳陽に

午後八時環口着先輩宅に到着く早速出エリた。ビールの何と
 帰に改めることよ。夜はバスに入って早速就寝。

六月二十三日 晴

六時起床、愈々明後日は横口もオサラバがある。今日は横口見
 物だ。佛租界から日租界にぬけて更に迂迴中山公園迄遷出
 する。晝。疲れが夜はグッスリ睡まる。

六月二十四日 晴

朝七時頃目を覚まし朝食を済ませくから軽く散歩し
 午後は深沢先輩に所招待され市民街に於て次を盡くす。

六月二十五日 雲

昨夜、豪雨が今日は大分涼しい。Y.M.C.A.に送別午餐を
招待する。午後四時半興泰丸に乗込む。

六月二十六日 雲

六時半船は動き出す。愈々横口で最後E感慨一しを深し。
船は軍調を歩みと續け行く。

六月二十七日 小雨

九江日本領事館訪問。明日の知嶺行の許可書を貰ふ。
雨のため悶々として、奥に支那宿に過す。夜は九江見物。